

原爆記念日

8月6日は、太平洋戦争末期の昭和20年の同日、アメリカ軍が広島市に対して原子爆弾を投下した日です。これによって日本人は、人類最初の原子爆弾被害者となりました。

広島に投下された原子爆弾は、実戦で使用された初めての核兵器であり、「リトルボーイ」と呼ばれ、B-29「エノラ・ゲイ」に搭載されて広島上空まで運ばれました。

「リトル・ボーイ」はTNT火薬2万トンを上回る破壊力があり、たった1発によって、その年の12月までに約14万人という多くの方々の尊い命が奪われました。

その後も今日に至るまで、非常に多くの方々が放射線被曝の影響などによって亡くなっており、広島で約27万人、長崎で約15万人もの方々が原爆死没者として登録されています。また、当時広島には、米軍捕虜十数名がおりましたが、彼らも全員原爆によって死亡しています。歴史の皮肉としかいいようがありません。

アメリカの原子爆弾は、ユダヤ系の亡命物理学者「レオ・シラード」の原爆開発提言を受け、当時の大統領ルーズベルトによって「マンハッタン計画」として開発が進められました。

このシラード氏は、原爆開発の開始に大きな役割を演じたにも関わらず、日本への無警告の原爆投下を阻止しようとしたといわれています。この他、物理学者「ニールス・ボア」等も原爆投下を阻止しようとしたましたが挫折し、原爆が投下されるに至りました。アメリカにも良識的な科学者がいたことは僅かな救いですが、結局は、原子爆弾を使用したいというアメリカの欲望には勝てなかったということでしょう。

この原子爆弾投下については、日本がポツダム宣言を拒否したことから、戦争を早く終わらせるために行ったものだと、その行為の正当性を主張する声があります。しかし、如何なる理由を付けようとも、原子爆弾の威力や持ってい

る残虐性を考えれば、許されざる悪魔の所業というほかありません。

勿論、アメリカ国民の中にも、太平洋戦争を通じて多くの血が流されており、日本憎しの感情が良識の声を押し潰していったこともまた事実でしょう。戦争というモノの恐ろしさは、単に人と人々が殺し合うということだけではありません。戦争は、国を守るためという「正義」によって、一人ひとりの声や思いを大河の流れのように飲み込み、押し流してしまいます。普段なら考えもしない残酷な行為を、あたかも熱病にかかったように正当化して恥じない状況が生じます。

戦争は、人間を狂わせます。だからこそ、戦争は絶対にしてはなりません。

私は、原爆記念日は終戦記念日と同様、あの悲惨な戦争を回顧する日ではなく、日本国民として、再び戦争を起こさないとの決意を新たにする日なのだと思います。（塾頭 吉田 洋一）